

## 検証会議における主な意見

### 【しごとづくり、しごとの魅力化】

- 竹田の強みを生かせるしごとの分野は、やはり農林業だと思う。農・食・つくること分野で女性の起業を支援してはどうか。
- 福祉に携わる人材不足は深刻。福祉分野の仕事にスポットを当ててはどうか。
- 市内で20代30代の雇用を増やしている会社もある。魅力的なしごとや求人に関する情報が若い人に届いていない可能性があるのでは。
- 県内大学へ進学した方が県内で就職する流れが大きい。大分の良さや地元企業の情報なども適切に発信していくとよいのでは。
- コロナによるパラダイムシフトは、女性の定住や、雇用の問題、Uターンを含む移住定住策にとっては大きなチャンス。ネット環境などの整備に柔軟に対応しながら、豊かな自然やブランド力に恵まれた竹田市でしごとができることの価値を強みにして、今だからこそ着手してほしい。
- 短期の見方の中で雇用情勢を良くしようというわけではなくて、やはり長期的なスパンで見る必要がある。

### 【はたらきかた】

- 出産や育児に対する対策は大切だが、女性が生活しやすくするためには、男性の育児休暇取得の推進も必要。行政から企業に対してのはたらきかけやサポートする制度を構築してはどうか。（若年層・男性の委員より）
- 時短勤務など、多様なはたらき方が浸透することで子育て世帯をサポートできる体制があるとよいのでは。
- 副業・兼業などの推進（起業する若者の本業が安定するまでの臨時的なしごととしても有効）

### 【企業誘致】

- 高校・大学を卒業後の就職先として、ITなど職業選択の多様性が地域内にほしい。
- ICT、IT関連の人材にネットワークを持ち、起業マインドのある人材を誘致してはどうか。
- 大卒・高学歴の女性が求める職場は、食を含めた「研究開発」などが多い印象。竹田市はすでに食のブランド化に取り組んでいるので、研究機関等の誘致、制度設計に取り組まれてはどうか。

### 【移住定住】

- 移住政策で結果が出てるのは素晴らしいこと。引き続き頑張ってください。
- 大田区と江戸川区が人口減少に転じた。彼らがどこに向かっていくのか関心を持っている。
- 転勤族の方が住所を探す中で、竹田は住むところがあまりないという話を聞く。不動産の情報がしっかりアピールできるとよいのではないかな。

### 【福祉施策（高齢者／子育て）】

- 高齢者を支えている世代は 60 代から 70 代。今後、この世代を支える人がいない。施設の創出など安心できる環境が必要では。
- 3 人目、4 人目と産んで頑張っている方も多い。そうした方へのサポートが充実しているとよいのでは。
- おばあちゃん世代も働いている世帯が多いので、母親世代が安心して仕事に出られない。支える仕組みが必要ではないか。
- アレルギー問題など子育ての困りごとからヒントを得て、この規模の町だからこそ、細かく対応できるような施策を構築し、そこに携わる人たちにも定住してもらうのはどうか。

### 【教育】

- 県下の公立高校で 3 番目に古い竹田高校は、2047 年に 150 周年を迎える予定。出生数の動向をみると 150 周年を迎えられるかどうか、強い危機感を抱いている。
- 高校生一人一人に「守りたい素敵な場所」として竹田をとらえてもらい、将来地域貢献をして欲しいので、竹田高校コミュニティプランニングの取り組みは力を入れていきたい。また、現在の高校 1 年生が 3 年生になり誕生日を迎えるとき、成人年齢が変わる。市議会で、高校生に直接、意見表明をさせていただくなど、緊張感のあるアウトプットのチャンスを与えていただくと高校生の本気度も変わるのでは。
- いわゆる超難関大学に進学できるような学力を身につけられる学校になることは、教育環境の魅力化にとって重要だと認識している。超難関志望の生徒が市外の高校に流出しているが、豊肥地区の子どもは豊肥地区で育てたい。生徒や保護者の期待に応えられるような進学校としてのレベルアップを踏ん張っている。
- 医師など地域に不足する職業を目指す方への学費支援を行い、将来竹田に帰ってくる人材に先行投資する長期戦略を持ってよいのではないか。

### 【通信環境】

- Wi - Fi 環境が整うと、若い女性が残りやすかったり、移住が進むのでは。
- 5 G 時代が到来。Wi - Fi も大事だが、5 G 環境への着手も検討しては。自動運転など多様な可能性が広がる。

### 【その他】

- 生活圏である豊後大野市・大分市など広域的な事業の検討・構築も重要
- この会議もほとんどの委員が男性であるため、できれば男女半々で多様な意見が出てくる場になるような工夫が必要。（出席者 17 人のうち、女性 1 名）